

平成28年7月4日
在ベネズエラ日本国大使館
(警備・領事班)

安全情報

No 25/2016

バングラデッシュにおける銃撃・人質事案を受けた海外に 渡航・滞在される方の安全対策のためのお知らせ

～テロに注意してください 先進国でも海外安全情報のチェックを～

(1) 今年の主なテロ事件

1日（金）21時30分頃（現地時間）、バングラデシュ首都ダッカ市内のレストラン「ホーレイ・アルティザン」において、数名の武装グループが人質を取って籠城し、日本人7名を含む約20名を殺害、多数が負傷する事件が発生しました。

本件につき、「ISILバングラデシュ」が犯行声明を発出しました。

バングラデシュにおいては、昨年11月、北西ディナジプール県のバス・ターミナルで、イタリア人男性が何者かに銃で撃たれ負傷し、10月3日、北西部のロングプール県において、邦人男性がオートバイに乗った者らにけん銃で撃たれ、殺害されたほか、9月28日、ダッカ市内において、イタリア人男性が同様の方法で殺害される事件が発生しております。また、10月24日には、ダッカ市内にあるイスラム教シーア派系の宗教施設付近で爆発が発生し、1名が死亡、100名以上が負傷しました。これらの事件についても、「ISILバングラデシュ」が犯行声明を発出しています。

その他、1月のインドネシア・ジャカルタ中心部での爆弾テロ、1月～6月にかけて断続的にトルコ・イスタンブル中心部の観光地・繁華街や首都アンカラ中心部での爆発テロ、3月のベルギー・ブリュッセル中心部の地下鉄及び空港での爆弾テロ、6月の米国・オーランドにおける銃撃テロ事件、トルコ・イスタンブル市アタテュルク国際空港における自爆テロなど、各地でテロが続発しており、多数の死傷者が出ています。

(2) テロの脅威

2014年9月、ISILは、欧米を含む世界の（逊ニ派）イスラム教徒に対して、対ISIL連合諸国の国民を攻撃するよう扇動する声明を発出しており、その後、ISILによるとみられるテロ事件が多数発生しています。また、ISILは、昨年初め、シリアにおいて日本人2人を殺害したとみられる動画を発出したほか、同年9月には、その機関誌において、ボスニア、マレーシア及びインドネシアの日本の外交使節（大使館等）を攻撃対象の候補として言及しています。

さらに、ISIL以外にも、イスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けているとみられる者による一匹狼（ローンウルフ）型のテロや誘拐等が世界各地で発生しています。今後、同様の事件が発生する可能性は否定できず、日本人・日本権益が標的となり、テロを含む様々な事件の被害に遭うおそれがあります。

（3）テロ等に関する安全対策

ア つきましては、海外に渡航・滞在される方は、上述のような情勢に十分留意し、誘拐、脅迫、テロ等の不測の事態に巻き込まれることのないように、外務省が発する海外安全情報及び報道等により、最新の治安情勢等の関連情報の入手に努めるとともに、日頃から危機管理意識を持つよう努めてください。特に、テロの標的となりやすい場所（デパートや市場等不特定多数が集まる場所、公共交通機関、ホテルなどの宿泊施設、ビーチ等のリゾート施設、観光施設、政府・軍・警察関係施設、欧米関連施設等）を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知したら、速やかにその場を離れる等、安全確保に十分注意を払ってください。

イ また、海外渡航前には万一に備え、家族や友人、職場等に日程や渡航先での連絡先を伝えておくようにしてください。

海外渡航や在留の際に、緊急事態が発生した場合、外務省からは随時情報を提供いたします。上記のブリュッセルにおける爆弾テロ事件のほか、トルコにおける爆発事案、バンコクにおける爆発事案やバングラデシュにおける邦人殺害事件等、緊急事態の発生に際しては、「たびレジ」や在留届等であらかじめメールアドレスを登録いただいた方には、一斉メールにより、情勢と注意事項をお伝えしています。

海外旅行や出張などの際には、海外滞在中も安全に関する情報を随時受けとれるよう、「たびレジ」に登録してください。

（<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/#>）

また、3か月以上海外に滞在する方は、必ず在留届を提出してください。

（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/zairyu/index.html>）

スマートフォンで、「たびレジ」に登録したり、希望する国の海外安全情報を閲覧・受信することができる「海外安全アプリ」もあわせて御利用ください。

（http://www.anzen.mofa.go.jp/c_info/oshirase_kaian_app.html）

ウ 実際に、テロ・爆発事件に遭遇した場合に被害を最小限に抑えるため、例えば、次の諸点を心がけすることをお勧めします。

＜予防措置＞

- 退避ルートを確認する。
- 隠れられる場所を確認する。
- 常に周囲の状況に注意を払い、不審者や不審物を見かけたら速やかにその場を離れる。

＜対処法＞

- その場に伏せるなど直ちに低い姿勢をとる。
- 頑丈なものの陰に隠れる。
- 周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう、速やかに、低い姿勢を保ちつつ安全なところに退避する。

（海外旅行のテロ・誘拐対策パンフレット（<http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph.html>）も併せて参考ください。）